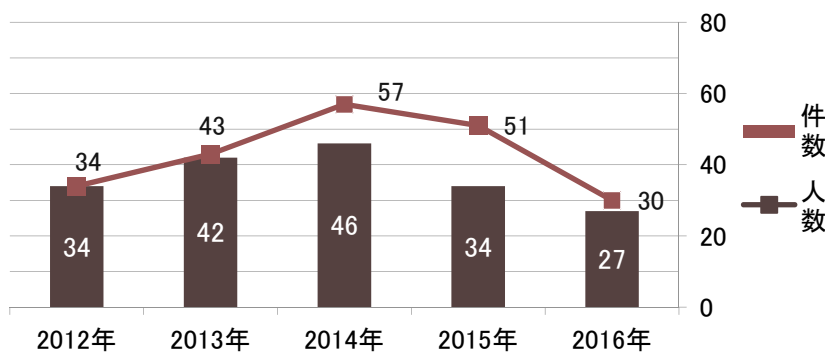


年別山岳遭難件数(2012～2016年)

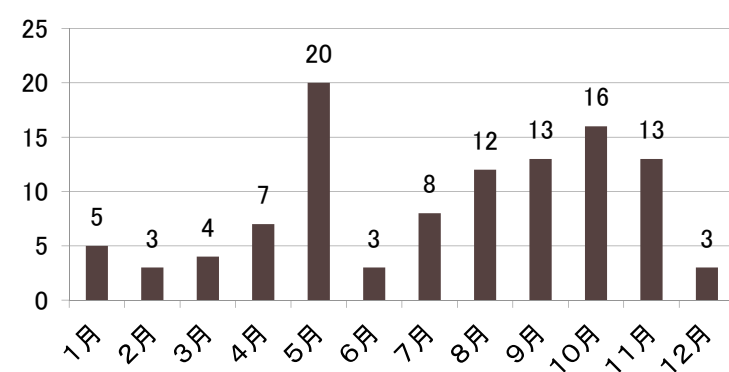


秩父市内における山岳遭難事故件数は、平成26年(2014年)をピークに減少傾向にありますが、年間30人以上の登山者等の遭難が発生しています。

山岳遭難状況(秩父市管内)

セーフコミュニティちちぶ

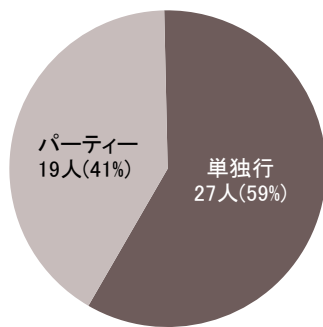
月別山岳遭難件数(2014～2016年)



また、月別の山岳遭難件数を見ると、5月が最も多く、次いで、9月・10月・11月などの秋口が多くなっています。

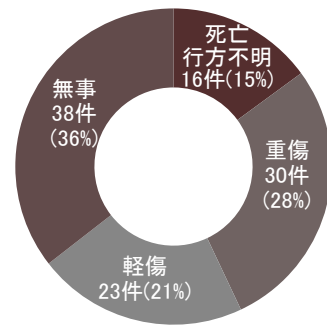
次に、遭難した場合の負傷程度状況を見ると、「死亡者」、「重傷者」で4割以上を占めており、重篤な事故に至っています。

死亡・行方不明・重傷者の単独行の割合(2014～2016年)



また、特に重篤な事故は、「単独行」の場合に多くなっています。

負傷程度別遭難件数(2014～2016年)



平成27年・28年の山岳事故データでは、遭難件数の多い上位の山は、両神山(14件)・武甲山(6件)・三峰山(5件)となっています。最も多い両神山は、下山中の事故が多く、特に、八海山付近と会所付近の転倒・滑落が多くを占めます。また、武甲山・三峰山は、転倒・滑落による事故が多く、発生場所はまちまちとなっています。

これからの時期は事故件数が多くなります。今回お示した危険箇所や事故ケース(転倒・滑落)などにご注意いただき、入山前の入念で無理のない計画、装備品の用意などを万全にし、山岳をお楽しみください。また、ハチの営巣活動が活発になる9月・10月は、ハチ刺され対策(黒っぽい服はさけるなど)も忘れずをお願いします。

セーフコミュニティ自然の中の安全対策委員会では、山岳遭難対策として、道迷いが多い箇所への案内板の設置や、駅や登山道入山口などでの啓発キャンペーンを行っています。引き続き、データ結果を基に、山岳遭難件数を減らすための取り組みを推進してまいります。

問 危機管理課 ☎ 22-22206